


②スマート農業に対応した畑地かんがい施設整備


現状と課題	目指すべき姿	スマート農業機械										
<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業従事者の高齢化に伴い、今後、担い手農家の農地利用面積は増加傾向にあり、少数の担い手が農地の大半を耕作する構造へと変化。 ○ マーケットからは契約に基づく定時・定量・定品質の農産物の出荷が求められるなど、畑地かんがいを活用した天候に左右されない計画的な畑作農業の展開が必要。 ○ 畑作物への散水作業に手間がかかるため、農地所有適格化法人や大規模経営体への農地集積や集約化を促進するには、さらなる散水作業の省力化と効率化が必要。 ○ 新規就農者が増える中で技術継承が課題となっているため、栽培のマニュアル化と農業者間でのデータ共有や栽培ノウハウの見える化を図ることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業負担が大きい散水作業において、畑地かんがいを整備し、散水タイマーや自走式散水機を導入することで、水管理の省力化や自動化が図られ、経営規模の拡大を実現 ○ フィールドサーバーや環境測定装置等を活用したきめ細やかな栽培（精密農業）により、経験の少ない労働力でも対処可能な環境を実現 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>導入機械名</th> <th>参考価格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 自走式散水機(小)</td> <td>約150万円/台</td> </tr> <tr> <td>○ 自走式散水機(中)</td> <td>約350万円/台</td> </tr> <tr> <td>○ 環境制御装置(モニタリング機器込み)</td> <td>約75万円/個</td> </tr> <tr> <td>○ 散水タイマー(電磁弁、レインセンサー込み)</td> <td>約7万円/個</td> </tr> </tbody> </table>	導入機械名	参考価格	○ 自走式散水機(小)	約150万円/台	○ 自走式散水機(中)	約350万円/台	○ 環境制御装置(モニタリング機器込み)	約75万円/個	○ 散水タイマー(電磁弁、レインセンサー込み)	約7万円/個
導入機械名	参考価格											
○ 自走式散水機(小)	約150万円/台											
○ 自走式散水機(中)	約350万円/台											
○ 環境制御装置(モニタリング機器込み)	約75万円/個											
○ 散水タイマー(電磁弁、レインセンサー込み)	約7万円/個											

スマート農業に対応できる畑地かんがい施設整備



天候に左右される不安定な営農（整備前）

➔




定時・定量・定品質の出荷が可能（整備後）

<効果>

- 自走式散水機や散水タイマーなどにより省力化が可能となり、先進技術の導入が可能

↓

- 多彩な品目の作付が可能となり、高収益作物が導入され儲かる農業を実現
- マーケットニーズに基づき、契約栽培や買取販売等による産地化が可能



茶の防霜対策のための自動散水

自走式散水機の導入



散水しながら自走
(中型自走式散水機)

水管理省力化



散水タイマー(中央)
電磁弁(右)
レインセンサー(左)

フィールドサーバー、環境測定装置等の導入



フィールドサーバー



環境測定装置

散水のタイミングを損なうことなく、散水が可能。

担い手不足の解消や大規模経営体の育成のためには、「スマート農業」を見据えた畑地かんがい施設整備が必要。